



広重版画より 三島 朝霧

第2377回例会

2024.2.8晴

司会 千葉慎二君

ロータリーソング 「我等の生業」
指揮 遠藤眞道君

会長挨拶 会長 平出利之君

今月のロータリーの友に千玄室さんの記事が紹介されておりましたので、短くして話したいと思います。千玄室さんは大正12年(1923年)4月19日生まれで、今100才になられます。第15代目お茶の裏千家家元であります。初代は戦国時代に織田信長・豊臣秀吉に仕えた千利休です。父親は千宗室さんです。千玄室さんは第2次世界大戦の時、海軍航空隊に入隊し、特攻隊を志願して鹿児島に行っております。34人の仲間とこれから出撃しようとした時に、「待機せよ」と命令があり、そのまま終戦を迎えたそうです。特攻隊の訓練中、仲間達にお茶を点っていたそうです。千玄室さんは青年会議所の理事長を経験した後に、京都南RCが創立した時に、創立会員として入会されたそうです。それからロータリー歴は69年になります。しかし今と違って入会の選考が非常に厳しかったようです。「会員としてふさわしいかどうか。その人の職業が、単なる職業ではなく、天から与えられた職業であり、その使命、リーダーシップをもって仕事をしているか」そのような事をチェックされて、入会が認められたようです。それから、今千玄室さんが考えるロータリーというのは、自分を磨く場所・心を磨く場所・絆を持つ場所。そしてみんなで手をつなぐ場所。と、おっしゃっております。最後に、「姿勢を正して前を見る」千玄室さんが皆さんにお贈りしたい一つの言葉です。と言ってこの記事が終わっております。

出席報告

	出席総数	出席率	メックアップ	修出席正率
前々回	42/49	85.71%	43/49	87.76%
今回	40/50	80.00%	会員総数	53名

欠席者 岩崎君、加藤君、川名君、清水君、杉崎君、梶山君、須田君、野田君、橋本君、原君

おめでとう

会員誕生日 仲田君、前田(博)君、
前田(房)君
入会記念日 赤池君

幹事報告

- 1.本日例会の卓話は職業・社会奉仕委員長 秋山恭亮君です。よろしくお願ひします。
- 2.次回例会は、2月25日(日)みしまプラザホテルにおいて静岡第1グループIMです。(受付12:45~13:30 記念講演13:30~14:30 式典14:40~15:35 懇親会15:50~17:00)
- 3.苗栗RC53周年記念式典に出席される方は、2023~2024年の記載がある苗栗RCからいただいたネクタイを着用してください。



◆室伏君、先日は母の葬儀にご会葬いただき、ありがとうございました。納骨を済ませ、日常が少しずつ戻ってきました。

卓 話

職業奉仕月間

職業・社会奉仕委員長 秋山恭亮君

1月は日本ロータリーの職業奉仕月間です。本日は職業奉仕についてお話します。ロータリークラブが他の団体と大きく異なる部分が「職業奉仕」をとても重用としていることです。ちなみに、職業奉仕という言葉は日本のロータリーで作られた造語で、一般の辞書には載っていません。ロータリークラブ独自の概念でありロータリークラブの軸足であるといえるでしょう。この職業奉仕とは何でしょう。ロータリークラブが1905年(約120年前)にシカゴで創立されてから現在まで、この職業奉仕という概念は大きく2回、変遷しています。また、変遷しながらも以前の職業奉仕の理念を否定することなく継続している部分もありますので、3つの職業奉仕論が存在します。

3つの職業奉仕論

- ①利己利他調和;”実践倫理主義論”(シェルドン)1905年～
- ②利他;”活動奉仕主義論”(コリンズ、G・デッカー)1930年～
- ③ 5大奉仕部門の”1部門論”(2016年～現在RI見解)

1、アーサー・シェルドンが説いた実践倫理主義論

シェルドンは人の心はこの2つが揺れ動く、だから商行為上、利己と利他の二つの調和が必要だ。その調和こそサービス(奉仕)であると説明しました。利益を得ることは大切だが、同時に顧客、従業員にも利益を分けてあげるべきである。奉仕とは商行為上の他人への思いやり(利他)のことであると考えました。この考え方は江戸時代、近江商人が考えた「3方よし」(商売において売り手と買い手が満足するのは当然のこと、社会に貢献できてこそよい商売といえる)と同じことでした。だから、シェルドンの職業奉仕論は日本人には素直に受け入れられてきました。しかし社会奉仕、国際奉仕、クラブ奉仕が描かれず、職業奉仕だけしか重要視していないということでもありました。クラブの視点はあくまで会員の商行為上の実践倫理にありました。この考え方は20年間ほどしか通用しませんでした。

2、コリンズ、G・デッカーの職業奉仕論:活動奉仕主義論

「ロータリーはクラブである」から、クラブにおける理念を「超我の奉仕」と変更しました。親睦だけでなく奉仕活動の方に重心を置いたのです。その「超我の奉仕」実現のための手段が職業奉仕であると考えました。あくまでも、社会通念上、「超我の奉仕」を第1であるとしたのです。その後、奉仕理念が4大奉仕(クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕)に分割されました。この時の職業奉仕の定義には、「ロータリアンがそれぞれの職業を通じて他の人々に奉仕すること」と

「高い道徳的水準を保つこと」が明記されました。その後、ロータリーは世界一の奉仕団体と言われるようになりました。この動きは1930年からその後85年間、2015年まで続いてきました。しかし、近年になり会員数が増えず減少するという、制度疲労を起こし始めました。それにRIが気づいたのが21世紀になってからです。

3、5大奉仕の一部門として

2016年の規定審議において、職業奉仕に関する規定が大幅に改定されました。「奉仕の第二部門である職業奉仕は、事業および専門職務の道徳的水準を高め、品位ある業務はすべて尊重されるべきである」という認識を深め、あらゆる職業に携わる中で奉仕の理念を実践していくという目的を持つものである。会員の役割には、ロータリーの理念に従って自分を律し、事業を行うこと、そして自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てるために、クラブが開発したプロジェクトに応えることが含まれる。」この改定とともに、ロータリーの入会基準も改定されたことは、皆さんもご存じかと思います。以前はしっかりとした職業をもち、原則1業種につき限定人数の入会だったわけですが、現在はその縛りもなくなり、誰でも入会できるようになっています。職業奉仕においても、自分の職業で奉仕に結び付けるだけでなく、クラブで事業を計画実行し、それに協力するという職業奉仕の在り方も規定されました。大震災の時、水道断裂で苦しむ被災者のために、とある水道工事業者のロータリアンが、現地においてボランティアで水道復旧作業に取り組みました。また、様々な問題が噴出し混乱する被災地で、弁護士・税理士・建築士などが無料相談会を開催しました。この例の他にも多くのクラブで、会員の職業上の手腕を活用した奉仕プロジェクトが実施されていますが、それが「職業奉仕の実践」であるとは明確に意識されず、「社会奉仕」「青少年奉仕」「国際奉仕」の活動として実践されている事例はたくさん考えられます。また「職業上の手腕を活用する」というと、歯科医師や水道事業者や弁護士のような資格者や技術者でなければ、外向き職業奉仕はできないのでしょうか?そんなことはありません。その会員の「職業上の手腕」を中心にして、クラブ全体の奉仕プロジェクトとして企画し実施すればいいのです。現地で作業を手伝う人。現地には行けないが活動資金を支援する人。広報宣伝活動をする人。どれも立派な「職業奉仕」なのです。

2016年の改定のスタート地点は「人が減った、どうしよう」だったかもしれません。しかし誰でもロータリーで職業奉仕をすることができ、より新しい概念をもちながらクラブの奉仕事業を計画推進できるようになったととらえると、三島西ロータリークラブの若いメンバーも入会している意義や、やる気も高まるのではないのでしょうか。過去・現在に三島西RCで行われた事業の中に、新しい概念の職業奉仕にあたるものもあるかと思ひますし、他クラブの事例もあると思ひます。それを調査し、今の概念で計画する事業に生かしていくことが、今後のロータリー活動に求められているのかもしれない。

今日の卓話を聞いて皆さんが少しでも職業奉仕について考え、会員同士で話していただければ幸いです。

今後も三島西ロータリークラブの活動がさらに活発で意義のあるものになるように、皆さんと力を合わせていきたいと思ひます。

(週報担当:町野 暉)